

ほけんだより

がっこうほけん
学校保健
委員会

とくべつごう
特別号

令和7年2月4日
射水市立片口小学校
保健室

れいわ ねんど だい かい がっこう ほけん いいんかい かいさい
令和6年度 第2回 学校保健委員会を開催しました。

にち じ がつ にち もく げん
日時:1月30日(木)5限

さんかしゃ ぜんこうじどう きょうしよくいん
参加者:全校児童、教職員

ない よう じどうけんこういいんかい げき ほっぴょう ほけんしつ せんせい はなし
内容:児童健康委員会による劇の発表、保健室の先生によるお話



テーマは

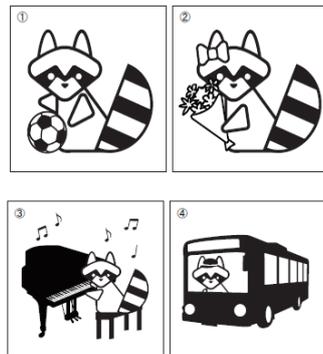
かたぐち こ め ざ たようせい かんが
たくましい片口っ子を目指して～多様性について考えよう～ です。

けんこういいんかい げき ほっぴょう 健康委員会による劇の発表より

けんこういいんかい めい げき ほっぴょう おこな ほっぴょう げき しょうかい
健康委員会11名による劇の発表を行いました。発表した劇のあらすじを紹介します。

だい ばめん じゆぎょう 第1場面:授業のはじまり

げき ぶたい しょうがっこう ほけん じゆぎょうちゆう きょう たようせい まな
劇の舞台は、小学校の保健の授業中。今日は多様性について学ぶよう
です。担任の先生から4匹のアライグマのイラストを見せられ、このアライグマの
性別って何だと思う?と問われます。子供たちからは、「花やピアノが好きなのは
“ふつ”女の子だと思う」「サッカーや電車が好きなのは“ふつ”男の子
だ」と等、「男はふつこう、女はふつこう」と決めつける意見が聞かれます。
それに対し、担任の先生から「多様性を考えるために、見てほしい動画
がある」と提案され、動画で多様性について学ぶことになりました。



引用:小学校高学年向け Ally Teacher's Tool Kit(ReBit)

どうがきょうざい せい 【動画教材:いろいろな性ってなんだろう(ReBit)】

YouTube上にも、「いろいろな性ってなんだろう」で
検索してみると、集会で見た動画と同じ動画があっ
ぷされています。

しょうかい み とちゆう つづ きがきになる
集会で観たのは途中までですが、続きが気になる
人はぜひ観てみてくださいね。

だい ばめん どうが まな 第2場面:動画での学び

どうが じんさん おとな ひと て せい
動画には、じゅんさんという大人の人が出てきます。じゅんさんは、からだの性は
女性として生まれましたが、こころの性は、男性でも女性でもない、という風に感じ
ているそうです。子供の頃は、周りから「女の子らしくない」と言われて育ち、
自分らしさを我慢するのがつらかった・・・動画の中で語っています。
でも、大学生のときに「ありのままのじゅんさん」を周りの友達が認めてくれたこ
とで、じゅんさん自身も、もっと自分らしくいられるようになったと笑顔を見せます。

だい ばめん いろ も おとこ こ 第3場面:「ピンク色のランドセルを持つ男の子」

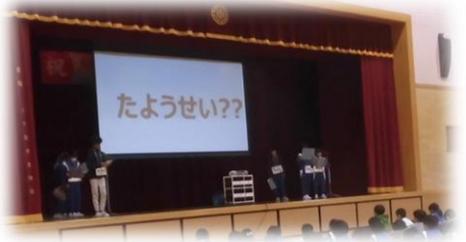
どうが みて、じゅんさんのお話を聞いた子供たちは、じゅんさんが「小学生の
とき、大好きな黄色のランドセルで学校へ行くと、周りの人から「どうして黄色のランド
セルなの?」「女の子はふつう赤のランドセルだよ」と言われた、というエピソードに
対し、「つらかったらうな・・・」「女の子らしく赤のランドセルを持つように言われて
嫌だったらうな」とじゅんさんに共感しています。そんな中、「男の子がピンクのラ
ンドセルを持つのは女の子っぽくて変だ!」「ピンクは男の色じゃない」と何人かの
子供が言い出します。また、「本人にバレなければ、かげではうわさをしたり、面白
がったっていいんだ」と言って、周りも、それにうなづく姿を見せます。



第4場面:差別・偏見への気づき

ピンクのランドセルを持つ男の子に対し、「本人にバレなければかげではうわさしていい」と言う子供たちの会話を聞いていた、担任の先生は「それは、本当の意味での多様性じゃない!!」と声を上げ、自分に置き換えて考えるように促します。

例えば、花が大好きで、将来はお花屋さんになりたいという夢をもつ男の子に対し、「もし、男なのに花が好きなんて変だとか、お花屋さんになりたいなんてバカみたい」ってかげで言われたら、どう思う?と。また、車や電車が大好きで、将来は運転手さんになる夢をもっている女の子に対し、「もし、女が運転手なんて無理だよ」ってかげで言われていたらどう思う?と。そこで二人は、自分たちの言動が、ピンクのランドセルを持つ男の子を苦しめていたことに気が付くのです。



保健室の八田先生のお話より

マイノリティとは

「マイノリティ」というのは日本語では少数派という意味です。いろんな視点から見たときに、社会の中で少数派で、そのことが原因で差別や偏見などを受けやすいひと・集団のことを、「マイノリティ」といいます。劇の中で、『ピンク色のランドセルを持つ男の子』の話が出てきましたが、周りの子供たちは、『ピンクは男の色じゃない』『女の子っぽくて変だ』等と心ない言葉を言っていました。何気ない気持ちで言った言葉、面白がっていただけのつもり言葉かもしれませんが、その言葉は、その子を深く傷つける言葉で、差別、偏見になるのです。

『多様性』ってなんだろう?

「マイノリティの人が、特別、周りの人と違う」というわけではありません。みんな一人一人がそれぞれ違いをもっています。違いの例を挙げると、国や文化の違い、体に障がいを抱えている、性のあり方が多数派とは異なる等です。多様性というのは、これらの違いを認識し、違いを尊重すること(違いを知り、違いを大切にすること)を言います。

もしかしたら今、人とは違うことがあって悩んでいる、という人もいるかもしれませんが、少し見方をかえると、その人にしかない、すばらしい個性や魅力もあります。そして、周りの人が、ありのままのその人を受け入れたり、認め合ったり、ポジティブな言葉をかけることで、その人自身も、もっと自分らしくいられるようになります。「みんながってみんないい」という言葉もありますが、片口小の皆さんには、互いの違いを認め合い、尊重し合える一人一人になってほしいと思います。

子ども かい 子供たちのふり返しカードより

・多様性という言葉をはじめ知った。
・男の子とか女の子とか関係なく、好きにしているんだなと思った。 1年生児童

・動画に出てきたじゅんさんの話を聞いて、いろんな理由で自分らしさを我慢している人や、苦しんでいる人がいるんだなと思った。 2年生児童

・「みんながってみんないい」という言葉が心に残った。
・自分は自分らしく生きていけばいいんだなと感じた。
・動画に出てきたじゅんさんが、自分の好きなように生きていく姿がいいなと思った。 3年生児童

・「みんながってみんないい」という言葉を聞いて、これから自分が、どんな自分になっていってもいいんだと勇気もらった。
・自分を大切にしていきたい。 4年生児童

・人の目を気にせず、自分の好きなものを好きでいいんだなと思った。
・動画に出てきたじゅんさんの友達の、じゅんさんへの声のかけ方がすてきだなと思った。 5年生児童

・劇に出てきたAB型のえびたのように、「自分は選ばれし者なんだ」と見方を変えるだけで、特別感が出てワクワクした。少数派は変なことではないと知って、勇気が出た。 6年生児童